

消防団長に道合政喜さん

* 佐藤喜一さんは勇退

佐藤喜一消防団長(七三)＝上区・写真右＝が、一月十四日付で勇退しました。後任に道合政喜副団



長(六四)＝黒崎・写真左＝が就任。一月十五日役場庁議室で新旧消防団長の辞令



交付式がありました。道合新消防団長は、昭和三十

任期は一月十五日からです。

佐藤さんは、昭和二十一年に村警防団(現消防団)に入団。

同六十二年に団長に就任、五十五年間にわたり、地域住民の生命、財産の保護など水火防災の使命に

徹してきました。その功績で平成七年に消防庁長官表彰功労章、平成十三年に消防功労者総務大臣表彰を受賞していま

す。

大鼓や笛、手平鉦が鳴り響く中、松を迎えて新しい年を祝うの舞い「山の神」など十一演目を披露しました。

村の鳥居地区にある鵜鳥神社に伝わる鵜鳥神楽の巡業が一月



うのとり 鵜鳥神楽新春に舞う

五日から始まりました。南回りの今年には村から釜石市方面へと神楽衆が足を延ばし、旧家や公民館で家内安全、無病息災を祈る多彩な神楽を舞い、沿岸地区に新春を呼び込みます。

神楽衆は、五日、鵜鳥神社遥拝殿で「シヨシヤ舞」「権現舞」と呼ばれる舞い立ちの儀式を行いました。

当日の公演は鳥居地区。神楽衆一行は「権現舞」を演じながら入場。「権現」とは神の仮の姿といわれ、権現様をいただいた神楽衆の「権現舞」は、その夜の宿をいたたく場所に入るときの礼儀とされてきました。

鵜鳥神楽は、九世紀初めに建立された同神社が、山伏修験者の霊場として発展していった際に生まれたとされています。「北の鵜鳥・南の黒森」と呼ばれ、宮古市の黒森神楽と一年交代で北回り(久慈市方面まで巡業)、南回り(久慈市方面まで巡業)と巡業する全国でも珍しい神楽です。

小学校高学年の部

恐怖の津波

黒崎小五年

森子 勇介くん

津波は、とてもおそろしいものです。ぼくは、地震がくるとすぐくると思っていたけれど、すぐくる津波と三十分ぐらいたつてからくる津波があることが初めて分かりました。

津波は、海底がもりあがつたりしずんだりするので、海水ももりあがつたり吸いこまれたりして、津波がおこるといふことが分かりました。

今から何十年前かに、ぼくたちが住んでいる普代村でもそういう大津波がきたとお父さんから聞いたことがあります。太田名部というところが



全めつし、家は全部流され、ほとんどの人が亡くなったそうです。まだ長生きできる人も一しゅんで流されて亡くなったと聞いて、とてもかわいそうになりました。

ぼくは、標高二百メートルの黒崎というところに住んでいるので、もし、今普代に大津波がきて、ぼくの家は大丈夫だと思っけれど、普代や太田名部は、また、大きなひがいをつけると

思います。普代と太田名部には友だちがいます。友だちがいなくなるというのを想像するだけで悲しくなります。

この本の中に、一九八三年五月、日本海中部地震で男鹿半島

に遠足に行っていた秋田県合川町合川南小学校の十三人の生徒たちがぎせいになった話も書かれていましたが、そのときの話を担任の先生から前に聞いたことがありました。担任の先生が小学校六年のとき、バスケットの試合をしたことがある学校の生徒たちだと聞きました。ぼくたちは、毎年黒崎のネダリ浜に遠足に行っているところに津波がきたら、と考えると、なれて

いる浜でもこわくなってきました。ぼくたちは、遠足は楽しみだけど遠足が悪夢になるのは悲しいことです。合川南小学校の生徒たちは、きつとくいをのこしたまま亡くなっていたのだと思います。

ぼくたちが住んでいる、普代村は、漁業の町です。お父さんも漁業の仕事をしています。地震がおきると津波がおこることが多いので、漁業をやっているお父さんには、テレビやラジオなどで、津波でひがいをつけないように気をつけてほしいと思いました。今は、情報化社会になつていたので、その情報をむだにせず、自分たちの命を守つて生活していきたいと思

います。「原文のまま」(勇介くんは現在六年に進級しています)